MRI検査説明書

桑名市総合医療センター

　MRI検査は磁気共鳴画像診断装置と呼ばれる装置で、強力な磁気の力で体の臓器や血管を撮影する検査です。MRI検査ではCTよりも撮影範囲が狭いため全身検索には不向きですが、狭い範囲であればCTでは得られない情報を得る事ができます。

　MRI検査には血管を撮影するMRA（MRIを用いて血管の撮影をする）やMRCP（MRIを用いて胆管膵臓の撮影をする）や、造影剤という薬を注射して行う造影MRI検査などがあります。どのMRI検査を行うかに関しては主治医の指示に従って下さい。

　MRI検査は、まず金属のついていない検査着に着替え、その後ベッドに寝て頂きます。検査が始まると、ベッドが狭いトンネルの中に移動し、撮影が始まります。撮影中は「がんがん」などの大きな音が出ますが、心配ありません。検査時間は30分程度です。検査中気分が悪くなった場合には、ナースコールを押して頂くと、検査を中断することができます。

　MRI検査の合併症はほとんどありませんが、強力な磁力を用いて検査を行う為、体内に金属が入っていると発熱を来たし、火傷の可能性があります。金属が体内に入っている方は、問診表に必ず記載をお願いします。以前はペースメーカーを入れられている方はMRIの検査を受けることが出来ませんでしたが、最近ではMRI対応のものもあり、受けることが可能になりました。そのため、ペースメーカーを挿入されている方はペースメーカー手帳をお持ち頂き、主治医に検査可能かをお尋ね下さい。

MRI検査は狭いトンネルの中に入りますので、閉所恐怖症の方は撮影をすることができません。また腎機能が低下している方が、造影剤を使用するMRI検査を行う場合、腎性全身性線維症と呼ばれる合併症が起こることがあるため、造影剤を用いたMRI検査を行うことができません。但し、造影剤を使用しないMRI検査は可能です。

　MRI室に入室する場合には、強い磁気によりクレジットカード・携帯電話が破損するため、持ち込まないで下さい。スタッフが確認させていただきますが注意をお願いします。

　ご不明な点がございましたら、主治医までお気軽にお尋ね下さい。